



牧野恭広会長が開会挨拶

九州沖縄土を考える会 夏期研修会

米や野菜のマーケットや流通は今後どうなる？ 延岡で聞いてみらんけ！

▶9月3日、4日
(宮崎県延岡市)



流通分野の講師は
平田達擴氏



ドローン解説の講
師は有吉健二郎氏

九州沖縄土を考える会（牧野恭広会長）が9月3日（火）、4日（水）に宮崎県延岡市で夏期研修会を開催し、会員、関連企業、事務局を含めて33名が集まった。初日は座学、2日目は2カ所の視察がコーディネートされた。

初日の講演の部は2本立て。まず1人目の講師は、「すき家」をはじめとする外食店舗を12カ国で約9700店舗を展開するゼンショーグループで、国内店舗で消費する米を調達する(株)ゼンショーライス・代表取締役社長の平田達擴氏。食糧・農業を取り巻く世界の動きと日本の動きを紹介し、日本の農業者が向かうべき方向性について、話題を提供した。「こういうコメを求めているのか」「業務用米ブームはいつまで続くのか」「海外店舗で使うコメはどこから調達しているのか」など質問が相次いだ。

続いて2人目の講師は、スマート農業の専門部署を掲げるヤマアグリジャパン(株)九州支社・ソリユーショングループ部長の有吉健二郎氏。ドローンの市場動向、稲作におけるリモートセンシングへの展

開、防除ドローンの最新機種、自動航行機能等について解説した。日進月歩で進化するドローンへの関心は高く、現実的な質問が飛び交い、ディスプレイは盛り上がった。

講演の後は、ホテルに移動して情報交換会へ。この日は雨続きの晴天とあって「農作業をしたい気持ちを抑えて駆け付けた」と漏らしつつ、仲間との再会と、地元では聞けない話々に満足そうな笑顔が見られた。

翌2日目は「佐藤焼酎製造所」へ。牧野会長の生産する大麦はここで麦焼酎になる。前日に仕込んだという米焼酎の香りの漂う醸造現場を見学した。ここでは麦・米・芋・栗の4種類の焼酎がそれぞれ仕込まれる。

続いて向かったのは、牧野会長の農場。数年前に專業化し、現在は20haの圃場で水稲20ha、大麦17ha、イタリアン牧草3haを主にワンオペでこなしている。倉庫にはトラクター8台、コンバインは自脱型と汎用を1台ずつ、プラウやサブソイラなど各種作業機が並ぶ。規模拡大に伴い、新たな労働力の確保が目下の課題とのこと。ちなみに、機械装備は補助事業や交付金を活用しながら無借金で導入されている。機械を眺めながら、情報交換を深めた。



2日目の集合写真



佐藤焼酎醸造所の仕込みの様子と牧野会長が納品した大麦